

日本YWCAの使命(ミッション)
イエス・キリストに学び、共に生きる世界を実現する
世界の人々と共に人権・平和・環境の問題に取り組む

第30総会期主題
平和を実現する人々は幸いである—マタイによる福音書5章9節

- 日本YWCAビジョン2015
(1) 非核・非暴力による平和を構築する
・平和憲法をまもり、世界に広める
・市民レベルで東北アジアの信頼関係を築く
・女性と子どもの権利をまもる
・パレスチナYWCAの活動を支援する
(2) 若い女性のリーダーシップを養成する

# YWCA 6 JUN.2010

発行所 日本YWCA
〒102-0074 東京都千代田区九段南4-8-8
Tel. 03-3264-0661
【四谷オフィス】
〒160-0008 新宿区三栄町6-12 2F
Tel. 03-5367-1872/FAX 03-5367-1873
E-mail. office-japan@ywca.or.jp
編集発行人 俣野尚子
振替 00170-7-23723 (毎月1日発行)
定価1部 150円
年間購読料2,200円(送料込)

www.ywca.or.jp

## 女性の貧困を解決しなければ 貧困問題は変わらない

赤石千衣子

貧困とは、単に経済的な貧困だけでなく、生きにくかったり、十分な教育を受けられなかったり、周囲との差から精神的にも剥奪感を抱いたり、家族にさまざまな問題を抱えてしまったり、生きていく希望を失うなど、さまざまな困難を抱えることを言います。

最近、貧困問題が豊かな日本に存在するということが、メディアを通じて伝えられるようになりました。しかし、その多くは男性の貧困です。実は、さまざまな統計を見ると、男性よりも女性の方が貧困であると言えます。たとえば、相対的貧困率は全年齢で女性のほうが男性よりも高いのです。また、非正規労働者の割合を見ると、女性は53%、男性は17%です。特に、若い女性の非正規化が著しく進んでいます。また、年収200万円以下の人は女性では40%を超えています。男性ではわずか10%程度です。この数字も女性の貧困が深刻であることを物語っています。

日本の社会システムは、強固な男性稼ぎ主型です。男性が長時間働いて、妻子を扶養する賃金を得、女性は第1子出産で6〜7割が退職し、専業主婦となり、2人の子どもの手を離れたら再就職はパート(あるいは活動がもしもありません)というのが日本では標準的な夫婦・家族の形でした。年間103万円以上働くと夫の給与に配偶者控除・配偶者特別控除が適用されなくなるため、103万円以内で働くことを「103万円の壁」と言います。年金についても、年収130万円を超えると妻は自分で厚生年金に加入義務があるためこれを避けました。この結果、女性の年収も時給も低く抑えられてきました。また、高学歴女性の就業率が低く、能力を生かしていない女性がたくさんいるのです。

103万円以下で働くこととするパート主婦と同じ職場で離婚や死別したシングルマザーやシングル女性も働いており、低賃金にあえぐことになりました。

特にシングルマザーの貧困は深刻です。ひとり親の貧困率は54.3%、2人に1人は貧困です。経済協力開発機構(OECD)加盟諸国の中でも、日本はトルコと並んで最も高いといわれています。労働の非正規化が進み、仕事が安定しない上、児童扶養手当などの福祉が切り下げられ、さらに、社会保険料負担などが家計に食い込んでいくからなのです。先日、シングルマザーに育つ子どもたちの教育調査を行いました。進学希望があっても進学に困難を感じる人が9割もいました。生活苦がもたらした子どもの教育に響き、次世代への貧困の連鎖を思わせました。

また、若い女性でも、非正規労働者として長時間働き、セクハラやパワハラで心身を傷めて、働く希望を失っている、そういう人が数多くいます。あるいはこうした女性の不利を蓄積した一人暮らしの高齢の女性は貧困なのです。

男性の貧困に言及するときには、その原因として労働の非正規化があげられます。派遣で働いている人たち、派遣切りにあつた人、寮から追い出されるような実態が目立っています。こうした男性の非正規化は、そもそも女性をパートで安く使っている企業が、若い男性にも非正規や派遣労働を押し広げていたからではないでしょうか。正社員・契約社員・パート社員・派遣社員のような身分制度があり、賃金も職場での福利厚生もまったく違い、派遣社員は名前も呼ばれない「ハケンさん」で、正社員になる道は閉ざされています。

非正規化によって、総人件費は抑制されました。90年代のバブル崩壊以後、日本は、輸出依存経済を作り



(あかいしちえこ NPO法人しんぐるまざあず・ふぉーらむ理事、ふえみん婦人民主新聞編集長、反貧困ネット副代表)

上げ、人件費を抑えるようにしてきました。その結果、2000年に入ってから好況のときにも、人件費は上がらず、消費は伸びず人々の生活が苦しいままでした。そして世界不況。日本は内需が弱かったため大きな打撃を受けました。

それだけではないのです。減税や社会保険料(国民健康保険料・雇用保険...)を上げていき、福祉を切りつめました(社会保障費2200億円削減は小泉政権時代です)。代わりにお金持ちには減税。その結果、本来は高額所得者と低所得者の所得の差を縮小させる所得再分配機能があるはずの税や社会保障が逆に所得の差を広げることになってしまったのです。

女性の貧困をなくすには、保育所など女性の働く環境を整備して女性の就業率をアップさせ(内需も拡大させ)、労働法の規制を強化すること、男女間あるいは雇用形態による賃金格差を正し、同一価値労働同一賃金を実現することが必要です。そして、シングルマザーと子どもたちに対しては、児童扶養手当などの現金給付とともに、子どもが育ち上がるまでの就学援助や給付奨学金などを普遍的に確保することが必要です。子ども手当はその一歩に過ぎないのです。そして男性稼ぎ主型モデルを変えていかねばなりません。

\*ふえみん婦人民主新聞(150000001 渋谷区神宮前3-31-18 03-3402-3238)

2010年ひろしまを考える 旅&日韓ユース・カンファレンス 募集開始 3面掲載 テーマ「あの日、被爆したのは日本人だけ？」

## 84歳の憲法記念日に 思う

松本 陽子

ピースアクション2002が提唱されて、札幌YWCAも、外に向かって積極的に行動しようというピースアクション委員会を立ち上げ、パレスチナやイラク派兵反対、平和憲法、子どもや女性の人権、環境問題等に取り組み始めた。

最初のサイレントアピールは、長いラシヤ紙に皆が平和へのメッセージを書き、「イマジジン」を流し署名してもらった行動だったが、何もかも初めての私たちは、所轄警察に行き目的・行動を話して了解を得たりしながら平和への思いを強くしていった。

札幌の5月の風はまだ肌寒く冬の厳しさを感じさせるが、大通り公園は芝生の緑が美しく萌え始め休日にはたくさんの方が集う。その一角で毎年憲法記念日に「街角リレートーク」と題して市民団体が平和を語り訴える。今年も札幌YWCAから2人がトークをした。最初の頃は原稿を読むだけで精一杯だった私も、戦争中の大通り公園が馬鈴薯や唐きび畑になっていたことや、食糧がなく皆栄養失調に苦しんだことなどに触れ、「どんな戦争も正義とは言えない」と話しかけた。子どもを背負った母が平和をどう考え生きるか話す横で、幼子がチャラシを通行人に渡し、受け取る人も笑顔で受け取り見てくれる、そんな光景も微笑ましく、皆が励まされた。昨年は、メンバーになったばかりの会員がご家族で参加して、小学生のお子さん2人が、チャラシに「憲法九条折鶴」を添えて真剣に配っていた。

小さな活動が若者や子どもたちに受け継がれて広がり、やがて日本国憲法9条が世界の憲法9条になる真の平和の日まで、YWCAの大きな環の中の一人として生き、神の国の平和の業に少しでも参加できる光栄と、札幌YWCAの活動の中に共にいる平安を感謝している。

(札幌YWCA会員)

# 女性の貧困

## 女性の相談・支援の現場で感じること

### —ウイメンズカウンセリング名古屋YWCAの活動を通して—

近年、「格差社会」や「反貧困」が取り上げられるようになったのは、「男性の貧困」が社会問題に浮上したためだと思えます。男性の貧困に比べると、「女性の貧困」は経済的な問題だけではありません。女性は多様な貧困・差別・暴力被害の苦しさを抱え、長い間社会の中で切り捨てられてきた歴史があります。

私は、ウイメンズカウンセリング名古屋YWCA(WCNY)で女性の相談・支援事業のフェミニストカウンセラーとして専門相談にあたっています。WCNYの有料カウンセリングは年間約1000件ののぼりです。相談現場に携わる立場として、WCNYには日本社会の女性問題の縮図が垣間見えると言っても過言ではありません。

10代から高齢者まで、女性が抱える問題はさまざまです。職場・学校・地域・家庭で、問題は身近なところで起こっています。DV・暴力・虐待・いじめ・セクハラ・離婚・親とのあつきき……どこにも関係のある中に問題はあります。背景にある、女性や子どもに対する人権

## 今どき日本で…

今どき日本で、「パンの耳を買って食べる若い女性がいる」と聞いて耳を疑った私は、紛れもなく「女性の貧困」に無知であつた。20代の頃のその女性性は、恵まれた容姿でモデルなどをしながら楽しそうに見えたが、30代に入るとがらりと変わり、喫茶店などアルバイトの掛け持ちをした。教会にも出入りするようになった。時々おばあちゃん世代の人たちと話し込んで涙ぐんでいることもあつた。今年に入つて喫茶店を解雇されたため、皆で声をかけ合い、さまざまな形でサポートをしてきた教会の交わりは、彼女にとって救いだったと思う。今は、ハローワークで紹介されたパソコン教室に通つて、再就職を目指している。

統計的に見ると、日本はGDP(国内総生産)世界第2位でありながら、GEM(ジェンダー・エンパワーメント指数)は第58位。女性の賃金は男性の半分。「男は外で仕事、女は家に」という日本の価値観が根深く、女性が就労を継続できず、経験やキャリアを賃金に反映できない状況にある。豊かな国だからこそ、女性の貧困化が見えにくく、対策が遅れる」という現実がある。

「日本YWCA100年史」を読むと、私たちの先輩たちは明治の終わりから、女子工場労働者や農村女性のために講演会・託児所・夜学校を、さらに労働調査部を作つて賃金・労働条件の改善などに努力していたことがわかる。それは、キリスト教基盤に立つて、共に生きることが目指し、精神的サポートのみならず社会の構造にまでメスを入れようとしたことを意味する。

今日、YWCAが「女性の貧困」について取り組むには、何から始めれば良いだろうか。まずは、活動を通して多くの女性たちに出会い、心開いて喜びや痛みを分かち合うこと、また共に出来ることを考え、それを実現できるように、勇気をもって声をあげることだと思ふ。

甲府YWCA 寺島順子  
\*統計・引用とも「豊かな国の女性の貧困化」(桜井陽子著、全国女性会館協議会発行)より

## 「わたちの21世紀 特集」女性の貧困 —何が見えなくしてきたのか?—

「年越し派遣村」「ワーキングプア」「ネットカフェ難民」など、豊かな国日本に蔓延する「貧困」が浮かび上がる中で、貧困ラインの年収200万円以下で暮らす人々の約7割を占めるといわれる「女性の貧困」がこれほどまでに問題視されないのはなぜか。不安定で保障のない

い非正規雇用で働く女性、シングルマザー、高齢女性、外国籍の女性、性暴力やDV被害を受けた女性、そしてその子どもたち。安全で安心できる安定した生活、ひいては尊厳ある人生が保証されない日本は本当に「豊かなのか」ということを改めて考えさせられる。

「女性と貧困」の問題は、経済的に困窮している人々の問題ではなく、すべての女性が多様なあり方で心身に自立することとを制限する社会の意識や構造の問題であると気づいた。この気づきを基にして初めて、今困難な状況にある人と問題を共有すること、寄り添うことが出来るのではないかと思ふ。創設当初から、女性の精神的・経済的自立とエンパワーメントに力を注いできたYWCAは、豊かに見えるこの時代にも、取り組むべき課題が多くあると思ふ。

「女は親や夫に養われている」のだから無償で子どもの面倒、亭主の面倒、老人の介護を担うべきという価値観の上に社会の仕組みが作られ、それにあってはまらない女性には保険も年金も正規の仕事もなく、その労働が「安値」で買いたたかれる。一方で「高値」で性産業に追

編集委員 清田悦子

## イギリスYWCA 経済的困難を抱えた若い女性への支援活動 —若い女性の能力が發揮できる社会を!



(技術トレーニング)

ケリーとヘーゼル。貧困に直面していたイギリスの2人の若い女性です。彼女たちはどうして経済的な困難を抱えていたのでしょうか。イギリスYWCAは彼女たちに何を与えることができたのでしょうか。

私に買いたいとお金を請求し、そのお金を飲み代に使い、そして私は自分が利用されているだけなのだと思ふことができた。 やっと。

ヘーゼル 私は15歳のころ退学になりました。他にすることが見つからなかったためお酒とドラッグに手をしました。同じような人がまわりにはたくさんいました。 やがて変わらなれないと思ふようになりました。私には幼い娘がいました。私には仕事が必要で、そのために資格が必要だとも分かっていました。でも学校に通うことからやり始めるゆとりはありませんでした。私は何かをしなかったのですが、自分でも何をしたいのか見つけることができませんでした。

ケリー 学生の頃つき合っていた彼がいました。つき合い始めの頃は幸せで、普通の関係だと思つていました。ただ、彼は無職だったので彼にお金を貸し始めました。彼を助けたかったのです。 一つの間にか彼は、私からお金を借りることが当たり前になりました。私はパートの仕事しかなかつたため貸し続ける余裕はありませんでしたが、NOと言えませんでした。彼が攻撃的になり私を非難し、私の口座を確認したからです。私はデブだと暴言も吐かれました。私の自尊心は底をつき、自分たちの関係がどのような状態なのか理解することも難しい状況でした。 彼がクリスマスプレゼントを

ケリーやヘーゼルのような若い女性を支援するため、イギリスYWCAは、若い女性の声や経験に基づき次のような支援・選択・機会を若い女性に提供しています。

イギリスYWCAの活動のテーマは「犯罪と暴力」「教育・スキル・就労」「健康と幸福」「お金と借金」です。特に経済的困難を抱えた若い女性への支援活動として、少女たちに予算の立て方、お金の上手な使い方の借金の返済方法や借金を作らないようにする方法など学ぶ機会を提供します。また無責任な金融業者に捕まらないような教育、低賃金の職種からのステップアップ支援、就労に関するアドバイスなどを通じて、イギリスの若い女性たちが経済的に自立

- ①新しいことを学び資格を取得する機会
- ②健康や教育を含む全ての情報
- ③施設で暮らすことの経験と野外教育
- ④ボランティア活動とキャンペーン
- ⑤刑務所からの社会復帰支援
- ⑥10代の妊娠と若い母親への支援
- ⑦カウンセリング
- ⑧女性が活動に参加するための託児所

イギリスYWCAの活動のテーマは「犯罪と暴力」「教育・スキル・就労」「健康と幸福」「お金と借金」です。特に経済的困難を抱えた若い女性への支援活動として、少女たちに予算の立て方、お金の上手な使い方の借金の返済方法や借金を作らないようにする方法など学ぶ機会を提供します。また無責任な金融業者に捕まらないような教育、低賃金の職種からのステップアップ支援、就労に関するアドバイスなどを通じて、イギリスの若い女性たちが経済的に自立

# 2010年 ひろしまを考える旅&日韓ユース・カンファレンス

8月15日(日)~19日(木)



広島「原爆ドーム」と「旅する人」を表しています  
白い羽根は「旅」と平和の象徴「ハト」をイメージしています

## あの日、被爆したのは日本人だけ?

### 2010年は、「ひろしまを考える旅」と「日韓ユース・カンファレンス」は協働プログラムとして開催します

日本YWCAは、2009年全国会員総会において「アジア・太平洋戦争の謝罪と未来に向けての決意表明文」を決議しました。その中には、2度と戦争を起こさないために、「非核・非暴力による平和を構築するための平和教育を展開し、暴力のない未来に向けてアジア・太平洋地域のYWCAと連携して、対話による平和と和解への道を歩み続けていく」ことが明記されています。

40年間、中高生と、ひろしまの被爆の実態に触れて平和を考え続けてきた「ひろしまを考える旅」は、近年、韓国・中国YWCAからの若者のゲストを招いています。また、「日韓ユース・カンファレンス」は30歳以下の日韓の青年が共にプログラムを企画・運営し、両国の共通の社会問題を学び合っています。これらは共に、ユースが東北ア

ジアの平和をつくり出そうとするプログラムであり、まさに決意表明を具現化した活動と言えます。

韓国併合100年となる今年には、「ひろしまを考える旅」と「日韓ユース・カンファレンス」は協働プログラムといたします。中国YWCAからのゲスト3人

と共に韓国YWCAからは15名の若者を迎え、被爆した日本人以外の人々の実態―その中でも最も犠牲者の人数が多い在日朝鮮・韓国人被爆者の歴史と被爆の実態を学び、平和な未来をつくり出すために何が出来るかを話し合うプログラムにしたいと考えています。

さあ、皆さんも一緒に「ひろしま」に行きましょう。出会いや学びがお金では買えないお土産になることでしょうか。あなたの参加をお待ちしています。

と共に関心を持っています。イギリスの働く女性の75%は特定の5つの職種(配膳業・介護・清掃・レジ・事務アシスタント)に属します。社会として重要な職種にも関わらず、賃金が低いのです。また20歳から24歳の女性のうち10人に1人は資格を持っておらず、皮肉なことに資格がないほど就労のためのトレーニングを受けにくい現状があります。この事実を改革するためにキャンペーンを通じて、若い女性の能力が発揮で

きる社会を実現しようとイギリスYWCAは活動を継続しています。

の問題ではなく、世界中の女性たちが直面する共通した大きな問題でもあります。日本のYWCAとしてできることのヒントも見つかるかもしれません。一度イギリスYWCAのウェブサイトを訪問してみてください。  
<http://www.ywca-gb.org.uk/aboutus/>  
運営委員 神合理恵子  
\*参考 イギリスYWCAホームページ



「イエスは、母とそのそばにいる愛する弟子とを見て、母に、「婦人よ、御覧なさい。あなたの子です」と言われた。」  
(ヨハネによる福音書19章26節)

十字架の上の方がご自分の死後、残される母マリヤの生活について優しい気遣いをなさいます。けれども「婦人よ」とはひどくよそよそしい呼びかけです。自分の子どもから「その女の人の婦人」と真面目に呼ばれたら、「私はあなたの子ではない。あなたは私の母ではない」というメッセージを伝えられたことになり、悲しい気持ちになります。イエス様は以前、ご自分の周りに座っている大勢の人々を見て「ここにわたしの母、わたしの兄弟がいる」とおっしゃいました。「婦人よ」の呼びかけに、あなただけが家族なのではなく、すべての人が私の愛する家族なのですよという御心が示されています。すべての人がこの方から呼びかけられています。「御覧なさい。ここにあなたの子がいます。ここにあなたの父、母、そして兄弟がいます」。贖いの主キリストに結ばれて、日々新たな家族を見つめる歩みを与えられている私たちです。

宍戸尚子 (山梨英和中学校・高校聖書科教諭、YWCA部顧問  
日本キリスト教団日下部教会協力牧師)

## 2010年ひろしまを考える旅 & 日韓ユース・カンファレンス募集要綱

- 日程**：1. 全参加：2010年8月15日(日)~19日(木)  
2. 「ひろしまを考える旅」のみ：2010年8月16日(月)~18日(水)  
\*オプション「世界遺産宮島を楽しむ」参加者は3泊4日。8月19日9時解散。
- 会場**：広島市国際青年会館 アステールプラザ  
〒730-0812 広島市中区加古町4-17 Tel:082-247-8700
- テーマ**：あの日、被爆したのは日本人だけ?
- 申込締切**：第1次：6月30日(水) 第2次：7月15日(木)
- 参加資格**：中高YWCAメンバー及び関係者・YWCA関係者・YWCAの活動に関心がある方  
\*日韓ユース・カンファレンスの部分は、ユースを対象としたプログラムのため30歳以下。
- 費用**：全日程参加(4泊5日) ひろしまのみ(オプション無) ひろしまのみ(オプション有)  

中高生：	26500円	18500円	26500円
大学生・院生：	30000円	20500円	30000円
一般：	33500円	23500円	33500円
- 注1) 費用には、申込金5,000円・プログラム費・宿泊費・食費・フィールドワーク交通費・保険料が含まれます。  
注2) 全日程参加者に限り、参加費補助検討中。  
注2) 留学生参加費補助制度があります。詳細は日本YWCAまで、あるいはHPをご覧ください。
- 定員**：65名(定員になり次第締め切ります)
- \*ボランティア・インターン募集中
- 申込・問合せ先**：日本YWCA(担当：仁田・根岸) Tel:03-5367-1872 Email:office-japan@ywca.or.jp

8月15日(日)	8月16日(月)	8月17日(火)	8月18日(水)	8月19日(木)
<日韓ユース・カンファレンス> 11:00 現地集合受付 *事前学習会  *日本/韓国YWCAプレゼンテーショングループ・ディスカッション  *お楽しみ会	<ひろしまを考える旅> 12:30 現地集合受付 *開会 *基調講演 豊永恵三郎さん(在韓被爆者渡日治療広島委員会)のお話  *広島市平和記念資料館見学  *交流会	朝の集い  *フィールドワーク ①被爆体験者に当時をうかがう ②被爆した十字架と復興 ③文学から考えるひろしま ④似島を巡る ⑤在日朝鮮・韓国人の方に当時から今日に至る話をうかがう  *被爆証言  *ワークショップ	朝の集い  *碑めぐり *思いを伝える  ひろしまを考える旅 閉会 12:00 現地解散  オプション 世界遺産「宮島」を楽しむ  <日韓ユース・カンファレンス>  グループ・ディスカッション	ユースによるワークショップ、ディスカッション、プレゼンテーション、他  17:00 終了

★青色の部分は日韓ユース・カンファレンスとなり、対象者は30歳以下の青年となります。



2010年4月22日

内閣総理大臣 鳩山由紀夫 様  
防衛大臣 北澤 俊美 様

日本YWCA会長 俣野尚子  
総幹事 西原美香子

### 普天間基地返還に関する要請書

私たち日本YWCAは、沖縄・普天間基地返還に関して、日本政府に対し、今こそ沖縄の民意を尊重することを求めます。日本政府は、戦後日米安保条約の下、長年にわたって沖縄に軍事基地を押しつけてきました。1972年の「日本本土復帰」に、沖縄の人びとは、平和憲法の下に沖縄の島から軍事基地がなくなることに望みをかけましたが、今もなお、日本の人口の1%の沖縄に、在日米軍専用基地の74%が集中し、日常的に在日米軍に関する事故や事件が発生しています。

現在問題となっている普天間基地返還については、そもそも市街地の中心部にある同基地の危険性を最重要課題として、1996年に日米両政府が日米特別行動委員会（SACO）に合意し、2003年までの普天間基地全面返還を約束したことでした。しかし、その合意が守られることなく、普天間基地がある宜野湾市の人びとは、騒音被害と墜落の危険性に晒された生活を強いられています。また代替施設として海上ヘリポート基地の建設候補地となった名護市辺野古地区の人びとは、地元のおじい、おばあが中心となって15年近く基地建設阻止を訴え、非暴力によって身体を張って闘い続けています。この間に沖縄にある米軍基地からアフガニスタン、またイラクに向けて戦闘機が飛び立ちました。沖縄の人びとは、沖縄戦での経験と中東で爆撃を受けている人びとの状況を重ね合わせながら苦悩し、「沖縄にも地球のどこにも、軍事基地はいらない」というメッセージを發しました。

今年1月に行われた名護市の市長選挙では、辺野古への基地移設反対を訴えた市長が選ばれました。また今月18日には、ヘリ部隊移転先として検討している鹿児島県徳之島で移設反対集会が開かれ、島の人口の6割近い人びとが移設反対の声を挙げました。これらは、沖縄県内外への移設に反対し、軍事基地の存続も許さないという明確な民意の表明です。日本政府は今度こそ、沖縄の人びとの声を真摯に受け止めなければなりません。

日本YWCAは、女性や子どもたちが安全で安心できる社会をつくり出すために、世界125カ国のYWCAと連携し活動していますが、軍事基地の存在そのものが、女性や子どもたちが安全で安心できる社会を壊すことは、沖縄をはじめ、軍事基地がある各国の女性たちの証言からも明らかとなっています。一人ひとりのいのちが愛され、人びとが安心して生きられる安全な社会の実現のためには、日本政府が日米安保条約ではなく、国際連合憲章や世界人権宣言の原則を尊重して、米国政府との交渉にあたるのが大切です。同時に日本政府が世界に誇るべき日本国憲法第9条を遵守することは申し上げるまでもありません。

日本YWCAは、日本政府に対し以下のことを要請いたします。

1. 米軍基地の重大な影響を受けている沖縄住民に対し、日本国憲法、国際連合憲章、世界人権宣言の原則を尊重し、経済的、社会的及び文化的権利に関する国際条約、市民的及び政治的権利に関する国際条約に定められた権利を保障すること。
2. 沖縄の民意を真摯に受け止め、普天間基地の無条件返還をめざすこと。
3. 日米同盟のあり方を根本的に見直し、米軍基地の全面撤退をめざし、軍事によらない「新しい日米関係」をつくり出すこと。



### 創立90周年 「記念の集い」に寄せて



現在の神戸YWCAがあるのは、これまでさまざまな形で支えてくださった方々のおかげだと考え、創立90周年の集いのテーマを「愛・感謝・希望」として準備を進めた。

4月10日、桜の花が美しい穏やかな1日。私たちの会館近くにある日本基督教団神戸聖愛教会で催した集いは、関係団体や遠くソウルYWCAからの約130人の参加者で会場が満ち、感謝の思いで胸がいっぱいになった。記念礼拝では、日本YWCA会長の俣野尚子さんから「添え

る木として生きる道」（ルカによる福音書10章25〜30節）と題してメッセージをいただいた。今年は、阪神・淡路大震災から15年。当時、俣野さんも救援にいち早く神戸に駆けつけてくださったが、その体験を通して「サマリア人の姿がYWCAの取り組みにあるのでは」と語られた。聴く人の多くが震災体験者で、話が心にしみ入った。

茶話会は、神戸YWCA機関紙に33年間にわたり「キリスト者のことば」を執筆されている笠原芳光さんの乾杯から始まっ

た。新会長モーア・アンさんの紹介、パワーポイントを用いた90年の歩み、2人の会員からの未来への抱負と続いた。そして80歳以上で今も現役で活動されている先輩方に、感謝の言葉を記した額と花束を手渡した。手づくりのケーキ、笑顔での語り、短い時間だったが和やかな雰囲気、集いを閉じるこ

とができた。神戸YWCAは震災以後、会館の移転などもあったが、高齢者介護、野宿生活者への夜回り、在日外国人の支援などさまざま

### My Story Her Story

### 渡辺道子さんのこと



去る1月23日、渡辺道子さんが94歳で召天された。1976年から2期6年、日本YWCA会長を、その後1989年から9年間、同理事長の任に当たられた。1960年代には世界YWCA常任委員もしておられる。ごく若い時から法律家への志を立てられ、時代の種々の状況にも屈せず、初志を貫かれ、敗戦の年の11月、戦後初の司法試験に女性3人のうちの1人として合格される。

翌年、司法修習生として学ばれる傍ら、4月から母校の女子学院で週1度、講師として教壇に立たれるが、そのクラスで、私は初めて先生にお目にかかったのである。先生は3月に発表されたばかりの新憲法草案を取り上げ、戦争放棄・国民の権利・両性の平等など、溢れる熱意・喜び・希望と共に語ってくださった。それは、戦争中、国民学校（小学校）で軍国主義教育を受け、空襲被災・疎開の中で敗戦を迎え、帰京、転入校し、「世の中、ホントに真実なことなんてないのでは」と心に深い穴を抱えていた私に、明るい空に向かう窓を開けてくださるも

のだった。それ以後の先生は、まさに東奔西走、新憲法・新民法の普及の旅に、そして1950年代から始まった反動の波との闘いに、YWCAに根っこを下しながら力を尽くされる。先生は人生の分岐点をしっかり見つめて歩んだ方だった。後年、ご自身の歩みを『新しい朝のひびき』として著しておられるが、そこには多くの貴重な心の出会いが記され、特に地方農漁村の女性たちとの出会いが先生の歩みの分岐点に重要な関わりを持つことが分かる。

晩年を「ゆうゆうの里」で過ごされたが、何う度に、周りの方たちにとってもいい笑顔で「ありがと」と度々言われるのに心打たれていた。ご召天後、改めて前述のご著書を読み、最後の段落の冒頭の言葉にはっとした。「今、また、私は、ほんものの赦された罪人として、新しい旅へ出発したいと望んでいる」。先生は目の前のお一人ひとりの向こうに主イエスを見ておられたに違いない。

東京YWCA 渡辺 峯

「協力ありがとうございます」  
賛助費  
東山千代 比企敦子 ゆのまえ知子  
平和教育資金 横山由美子  
ハイチ大地震被災者支援募金  
ブルー学院中学校高等学校  
露木美奈子 神戸バプテスタ教会  
日本福音ルーテル小田原教会  
釧路YWCA 広島YWCA  
福岡YWCA 沖縄YWCA  
大阪YWCA 総幹事会一同  
ラマラYWCA被災者支援  
長崎YWCA  
国際協力募金 伊藤仁子  
国際協力相互援助 京都YWCA  
国際協力緊急募金 東京YWCA  
一般寄付  
川端国世 鹿野幸枝 俣野尚子  
理事会一同 匿名  
（2010年4月20日現在 敬称略）